

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 8 月分

芝井千夏

作成日:2017 年 9 月 9 日

皆様、初めまして。この度、フィンドレー大学・福井県奨学生として、アメリカのオハイオ州に位置する、フィンドレー大学に留学させていただくことになりました。芝井千夏（しばい ちなつ）と申します。私は高校二年次に、福井県高校生海外語学研修に参加させていただき、アメリカに約 2 週間滞在しました。この経験をきっかけに、将来は英語力向上に努め、多角的視点から世界を見、国際的に活躍できる人材になりたいと思うようになりました。あれから約 4 年経った今、皆様のご支援のもと、再度このようにアメリカの地で学び、たくさんの人々や文化と出会う機会を与えていただいたことに大変感謝しております。皆様のご支援を糧にして、日々学び、日々挑戦する約 10 か月を過ごしたいと思います。そして、福井県代表として国際交流や教育など様々な面で貢献できるよう、精一杯生活したいと思っています。これから、月に一度報告書にてこちらの生活をお伝えすることになりますが、皆様に感謝の気持ちと共に発信したいと思います。また、これから留学を希望されている方への一助になれば幸いです。今回は、第一回目の報告書ということで、フィンドレー大学の専攻と施設、サークル、そしてアメリカでの一大イベントについてお伝えしたいと思います。

* 自己紹介 *

私は福井県美浜町で生まれ、現在山梨県の都留文科大学に通う 3 年生です。専攻は文学部比較文化学科で、主に世界が抱える問題やそれに対する各国の取り組み、言語について学んでおります。また、それに加えて中学校英語教員課程も履修しております。将来は、生徒たちに様々な可能性を与えられる教員になりたいと考えています。そのために、アメリカでは新しい知識を身に着けたいと思い、専攻は日本とは別のものを選択する予定です。また、挑戦することが趣味で日本にいる間は、海外を旅行したり、サークルを立ち上げたりと日々アクティブに活動していました。アメリカでも様々な挑戦をしたいと思っています。



* フィンドレー大学について *

—専攻について—

フィンドレー大学は、アメリカのオハイオ州に位置する私立大学です。教育学部、経営学部、馬術学部など合計約 120 個の専攻があります。中でも私は IELP という専攻に所属しており、今学期は英語の Writing, Reading, Grammar, Listening に特化した授業と日本文化とアメリカ文化を比較する授業 (Experience in Japanese) を受講しています。生徒は

国際色豊かで、中国やネパール、オランダ、ケニアなどから来た生徒と共に学習しています。名前を覚えるのが難しく、名前を聞いたらメモを取り、その日に覚えるようにしていました。また、私の名前は発音しにくいので Chinny というニックネームを使い、みんなに自己紹介していました。学校で会うと、'Chinny!' と呼んでくれる友人がいるのは大変幸せに感じる瞬間です。また、到着直後の英語のテストの結果によって後期で専攻をより学問的なものに変更することができます。私の場合、後期から専攻を替えられるので、現在何を専攻しようか考えている段階です。加えて、アメリカのカリキュラムは生徒の希望に柔軟に対応されており、中にはWメジャー（専攻を2つ持つこと）をしていたり、専攻の変更を考えていたりする友人もいます。自分の将来に学問や大学生活をどのように生かすか、日々考えて行動するアメリカの生徒にたくさんの刺激をもらっています。私の場合、新しいことに挑戦したいと思い、合唱の授業と地域の方々や子どもたちと交流する授業を追加しました。

—放課後について—

授業は曜日によって様々ですが平均して5時頃に終わり、その後は自由に活動できます。私は、サークルに入ってアメリカの生徒たちと活動したいと思い、興味のあるサークルに足を運ぶようにしています。アメリカのサークルは大変開放的で、誰でも好きな活動日に参加できます。現在の段階で、LGBTのサポートをするサークルとダンスサークルに所属しようと考えています。また、フィンドレー大学は設備が充実しており、トレーニングルームやロッククライミング、プールなどがあります。それらの施設も積極的に利用するようにしています。加えて、毎週ジムでキックボクシングやズンバ（フィリピンのエクササイズダンス）の講習が行われているので、友人とよく参加しています。

休日は友人と共に各国の料理を作り一緒に食べています。先週はアメリカ人の友人がパスタを作ってくれました。レシピを英語で説明する力や料理の腕前を挙げるのに、本当に役立っていると思います。そして何より、休日に一緒に遊べる友人ができたのは、言語の壁を少し破りつつある証拠だと感じ大変嬉しく思います。友人の存在は、英語学習の活力となっています。しかし、私は料理が苦手なのでおいしい日本食を味わってもらえるように頑張りたいと思います。



*** solar eclipse について ***

8 月はアメリカで珍しい皆既日食が起きました。驚いたのは、教授たちが生徒たちに日食を見せるために講義を中断し、たくさんの生徒が外に集まっていたことです。日本では、あまりない光景なのではと感じました。専攻の学問だけでなく、様々な分野に興味を持たせるアメリカの教育の指針に関心を抱きました。日食は見事見ることができ、私は地元のニュース番組に少し映し出されました。



(<http://www.wtol.com/story/36184743/findlay-students-have-a-rare-first-day-of-classes> アクセス日 2017. 9. 10 ※アメリカ時間)

アメリカについて約 1 か月が経過しましたが、一分一秒を無駄にしないよう積極的に行動できていると思います。9 月は、マラソン大会への参加、オハイオ州の遊園地シーダポイントへの観光など、様々な行事があるので次回報告できればと思います。また、アメリカの生活や大学など何か疑問点や興味のある事柄があれば私の Email にて連絡いただければと思います。(shibaic@findlay.edu)

それでは、最後まで読んでいただきありがとうございました。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 9 月分

芝井千夏

作成日:2017 年 10 月 12 日

皆様、いかがお過ごしでしょうか。こちらは紅葉が見え、秋らしくなってきました。気温は寒く長袖か、セーターを着ることもあります。冬服をあまり持ってこなかったため、両親に少し送ってもらうようお願いしました。どこにいても両親の支えは本当に心強いです。

(荷物を送るのに2万円ほどかかったそうです笑。)

また、学校生活には既に慣れ、クラスメイトとの仲も大変深まってきました。共に勉強するだけでなく、ボーリングに行ったり、クラスメイトの家族が経営する中国レストランに招待してもらったりと国際色豊かな友人に囲まれて毎日刺激のある生活を送っています。

今回の報告書では、学校内で行われたイベント(マラソンイベント、Japanese program party)、サークル活動、ハウジングについてお伝えできればと思います。

1. マラソンイベント

学内では毎週のようにイベントが行われ、アンテナを張っていれば様々な人に会い、新しい知見を得たり経験をしたりすることができます。9月は友人とチームを組み、Run the World 5Kと呼ばれるマラソン大会に参加しました。この大会はOffice of International Educationによって主催されており、留学をしたい学生が情報収集できる機会でもありました。また、参加費はフィンドレーの学生が留学をする際の奨学金に使用されます。このように、各イベントには楽しみながら誰かの役に立てるような目的があり、大変素晴らしいと感じています。



大会では、友人4人とチームを組み5人の平均タイムで順位がつけられました。久しぶりの運動で苦しく感じることもありましたが、チームで声を掛け合い2位になることができました。後日、チームでお祝いに食事をしたことも良い思い出になりました。

2. Japanese program party

今月はフィンドレー大学と協定を結ぶ日本の大学や県について紹介するパーティーが行われました。私は、福井大学から留学している日本人1人、福井県に留学していたアメリカ人2人と合計4人でプレゼンを行いました。特に福井県の有名な観光地である永平寺は、宗教に関わるので英語で紹介するのは少し骨が折れる作業でした。しかし、観客の方々に楽しんでもらうことができよい経験をすることができました。また、他の日本人留学生からも、

福井県の事を知らなかったので興味深かった、などといったコメントをもらい、福井県の魅力をより多く伝えられるように発信を続けていきたいと感じました。

3. サークル活動

今月は様々なサークルに足を運び、アウトドアサークル、ダンスサークル、学内のマイノリティを支援するサークル、町の貧困を支えるサークルに参加しました。中でも、一番カルチャーショックを受けたのは学内のマイノリティを支援するサークル（以下 OC3）でした。サークル内で自分の意見を発表する場があったのですが、トランスジェンダーの学生が自身の経験などを率直に発表し、周りの生徒も彼に耳を傾け真剣に話を聞いていました。私は、日本で生まれてからこれまでそのような場面を見たことがありませんでした。友人間や知人同士なら個人的な会話はできると思いますが、初めて会った人たち、そしてクラス規模の人数の前で自分の経験を話すというのは日本ではあまり考えられないと思います。アメリカ滞在中に、Everybody is an expert of something.（全ての人は何かにおいて秀でている。）という言葉聞いたことがあります。まさにこの通りで、人は様々な人生や考え方を持っており、全ての人が同じであるはずがありません。しかし、全ての人生や考え方は素晴らしい、尊敬されるべきです。批判をし合うのではなく、お互いに共有し、理解し合うことで自分の人生や考え方も豊かにすることができるのです。彼のおかげで、自分の経験や意見を話すことに対する考え方が少し変わりました。

4. ハウジング

私は現在、アメリカの学生3人、ケニアからの留学生1人、日本人2人の計6人でシェアハウスをしています。キッチンやお風呂、トイレ、洗濯機、乾燥機などは全て6人で共有し、2人部屋が2つ、1人部屋が2つあります。私がシェアハウスに決めた理由は、少しでも英語を話す機会を作りたいから、そして広いスペースがあった方が友人を招くことができると思ったからです。私の期待は予想通りで、朝から寝る直前まで英語を話すことができ、話が盛り上がり夜中まで話すこともあります。また、友人の趣味が料理のため、私も一緒に料理をして友人を招くようになりました。前回の報告書を書いた時期と比較して、料理の腕も上がってきたと感じます。ハウスメイトや友人のおかげで毎日充実した生活を送ることができています。



以上のように今月も楽しく刺激のある毎日を過ごすことができました。留学が始まってから2か月が経とうとしており、生活に慣れてきているので、毎日よく考えよく行動し積極的に行動したいと改めて感じています。周りの人々に支えられ、こうした経験ができていることに感謝するばかりです。拙い文章ですが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

また、留学に関してご質問、ご要望などがございましたら shibaic@findlay.edu (芝井千夏) までご連絡ください。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 10 月分

芝井千夏

作成日:2017 年 11 月 7 日

皆様、一段と寒くなって参りましたが、いかがお過ごしでしょうか。こちらは、秋が過ぎ去り、冬がやってきました。気温はマイナスになることもあります。雪は降っておらず晴れた日々が続いています。大学内の暖炉には火が灯り、学生や町の人々は暖かそうなコートを身に着け歩いています。寒くはありますが、物語の中に出て来そうなアメリカの冬を過ごすことができ、心があたたまるような気さえます。今年も残すところ1か月となりましたが、皆様も体にお気をつけてお過ごしください。

今回の報告書では、Engage Citizenship Conference というイベント、Fall break（秋休み）、Halloween についてお伝えできればと思います。

1. Engage Citizenship Conference

今月は Engage Citizenship Conference というイベントに参加しました。このイベントは、3日間かけて Engage Citizenship（市民権、人々が持つべき権利）について話し合うというものです。参加するには、自分のこれまでの国際交流活動やこのイベントに興味を持った理由、文献を読んだ要約と自分の意見を述べるなどといった申込用紙の提出の必要があります。それによって参加可能かが決まります。3日間で文化や移民など様々なトピックについて話し合ったり、トレド美術館へ



行きアフリカ系アメリカ人の Kara Walker が描く内戦の絵画を鑑賞したりしました。中でも、私はオハイオ州での移民問題について関心を持ちました。アメリカでは各州で法律が異なっているため、移民学生が州から州に移動した場合、以前の学校の単位を認定されない場合があると言います。また、VISA を持っていて、運転免許を持つことができないこともあるそうです。このように、日本と比較してアメリカは移民を受け入れているように見えても、国内での差別や制限が待ち受けているということが分かりました。話し合いに参加することは難しいものでしたが、周りの友人に説明してもらったり、自分で解釈して合っているか聞いたり自分なりに工夫して3日間過ごすことができました。話し合いでは、どの友人も積極的に自分の意見を述べ、互いに意見が違えば説明し合うという光景がよく見られ、アメリカの教育における積極性の重要性を改めて感じることができました。私自身も意見を発することによって新しい知識を広めたり、反対にその意見に対する意見が返って来て自分の新たな知識になったりと、発することの大切さを再確認できました。

2. Fall break（秋休み）

秋休みの4日間（10月14日から10月17日）で、デラウェア州にある友人の家に遊

びに行き、ペンシルバニア州のフィラデルフィアにいる友人に会いに行きました。デラウェア州では2日間友人の家族や友人と一緒に過ごしました。ちょうど友人の弟の誕生日だったため一緒にお祝いしたり、教会や観光地に行きたくさんの人と仲良くなったりとよい休日を過ごすことができました。仲良くなった友人にまた来てね、といってTシャツをプレゼントしてもらい大変うれしく思いました。家族と一緒に過ごすということで少し緊張しましたが、本当の家族のように接してくれ心温まる2日間を過ごすことができました。

また、フィラデルフィアでは日本で仲良くなった友人に会いに行きました。日本では3時間ほどしか話していなかったのですが、またアメリカで会えたと思うと大変うれしく思いました。フィラデルフィア名物のチーズステーキを食べたり、自由の鐘や独立記念館を見たりと歴史にも触れることができました。



←左：デラウェアにて

筆者左

友人にもらったTシャツを着ています。

右：フィラデルフィア独立記念館→
にて

筆者右



3. Halloween について

Halloween は友人と仮装をして遊んだり、学校内の Halloween のイベントに参加したりしました。Halloween は子どもたちが仮装をして、地域の家を周り、お菓子をもらうイベントです。昔は宗教的な意味合いがあったそうですが今はイベントとして人々に楽しまれているようです。フィンドレーには住宅街がありますが、ほとんどの家に Halloween のデコレーションである、かぼちゃを切り抜いたジャック・



オー・ランタンやおばけの飾りが置いてあり、各家を見るだけで家の人の個性が見られます。Halloween は人々に楽しめるイベントですが、アメリカの銃や麻薬の許可によって子ども

たちが危険な目に合うことも事実だそうです。こういったことも現地で改めて知ることができて、アメリカを内部から見ることができたと思います。

学校内では様々なイベントが行われると前回の報告書でお伝えしましたが、Halloween のイベントもまた行われました。かぼちゃにペイントしたり、Halloween とお菓子を食べたりとアメリカの Halloween を体験することができました。



10 月も様々な活動に足を運び、友人と共に日々を過ごすことができました。先日の事です、友人が「千夏は親友の一人だ」と言ってくれました。アメリカに来て、日本にいる友人や家族と離れていますが、こちらでもたくさんの人に支えられて本当に恵まれていると感じながら日々生活しています。段々と寒くなってきましたが、寒さに負けないよう、たくさん学んで食べて運動して元気に頑張っていきたいと思います。

何か質問などがありましたら、shibaic@findlay.edu まで連絡いただければと思います。今月も最後まで読んでいただきありがとうございました。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 11月分

芝井千夏

作成日:2017年12月1日

皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので、12月に入り今年も残り一か月となりました。また、渡米してから四か月が経とうとしています。四か月で環境が180度変化した中で、本当に周りにいる人々に支えられて生きていると再確認しています。どこにいても必ず私の背中を押してくれる人がいる、くじけそうになったら声をかけてくれる、そんな人々と共に、残り約半分の留學生活も私らしく突っ走っていきたいと思います！

さて、今回の報告書では、最近感じる「アメリカ人の温かいおもてなし」、福井からのビジネスマンの訪問、ボストンキャリアフォーラム2017についてお伝えしていきたいと思います。

1. 「アメリカ人の温かいおもてなし」

「おもてなし」とは心のこもった接遇、歓待、サービスなどを意味する表現を指し、2013年の流行語大賞にもなりました。しかし、「おもてなし」は本当に日本特有の概念なのでしょうか。私は約四か月アメリカで過ごし、アメリカにも「おもてなし」があると気づきました。しかし、日本人とアメリカ人で相手に対しての思いやりの方法が違うのです。日本では訪問客を招く際、彼らをゲストとして特別に扱います。一方、アメリカでは訪問客を一

家族としてみなし、その思いやり方がまさに「おもてなし」なのです。



例えば、合唱の授業での出会いです。私は合唱の授業を履修しており、合唱には地域の方々も参加しています。その中で、ある方が冬は寒くなるだろうから一緒にコートを買に行こうと声をかけてくれました。その方は私を家族のように思ってくれ、私が気に入るコートを見つけるまで色々な店に連れて行ってくれました。いい買い物ができると一緒に喜んでくれ、家に帰る際はハグをし、いつでも連絡してね、と言

ってくれました。

また、Thanks giving breakには友人の家にホームステイをしたのですが、ホストマザーは毎朝Good morning Sweetieと言って友人にするのと同じようにハグをしてくれ、家族と従妹と親戚が集まるThanks giving dinnerにも参加させてくれました。また、食事をしたい時は、私が実家できるように棚や冷蔵庫から食べたいものを選んで食べていました。



日本では訪問客に対して特別な待遇をすることが多いですが、アメリカでは訪問客に家族同様に振る舞うのです。私は現在家族と離れて暮らし

ているため、彼女たちの「おもてなし」を身に染みて感じました。日本人にはあまり馴染みのない「おもてなし」の方法ですが、根底にあるものは相手への思いやりの心だと感じました。

2. 福井からのビジネスマン・ビジネスウーマンの訪問

11月6日から11月16日にかけて、福井県からビジネスマン・ビジネスウーマンが「福井・フィンドレー・ビジネスセミナー」の参加のためにフィンドレー大学にいらっしゃいました。福井県の各企業や県庁より8名の方がいらっしゃり、英語によるプレゼンテーションの作成や、レセプションの参加、フィンドレー内の企業訪問をされました。私は実際に活動には参加していませんが、歓迎会、キャンパスツアー、ボーリングのイベントなどを通じて企業の方々とお話しする機会を頂きました。歓迎会では学長のお宅でのディナーに招いていただき、企業や県庁の方々、フィンドレーの市長、学長などとお話ししました。たくさんの激励のお言葉を頂き、福井県の代表としてフィンドレー大学に留学しているということを改めて自覚することができました。キャンパスツアーでは私を含む福井県出身の学生2人でキャンパスの紹介をしました。キャンパス内の図書館やジム、美術館の紹介を通じてキャンパスやフィンドレーや奨学制度の歴史を学ぶよい機会になりました。フィンドレー大学・福井県奨学生制度は前学長であるフリード氏の福井県への熱い思いにより実現しました。今回の派遣で11人目になりますが、フリード氏の福井県への熱い思いの後継と福井県の未来を担う人々の留学への希望を、私自身が率先して次期奨学生に繋いでいけるよう活動しようと思いました。このセミナーも今年が初めての試みだそうですが今後も継続して行われ、福井県とフィンドレー大学の関係がより深いものになるよう懇願します。

3. ボストンキャリアフォーラム 2017

前奨学生の方も何名かこのイベントに参加されていたようですが、私もボストンキャリアフォーラム 2017（以下BCF）に参加してきました。このイベントは海外に滞在しており日本で就職活動ができない学生や転職者を対象とした就職活動イベントです。今年も200社以上の企業がボストンに集結したようです。私は現在都留文科大学を休学しており、20年卒扱いになりますが、自分を試してみたいと思い参加を決めました。BCFの事前応募には、専用のウェブサイトによる履歴書、追加質問の作成、それに加えて当日持参する履歴書の準備が必要です。各社企業理念などが異なるため、志望理由などを変更して作成しなければなりません。私の場合、20年卒を募集している企業が少なかったので、事前応募に加えてウォークイン（当日直接企業の方とお話をして履歴書を渡すこと）にも挑戦しました。

感想としては、色々な世界を見るべきだということです。それによって新たな考え方を手に入れることができるからです。私は正直に言って留学をすること自体が素晴らしいと思っていました。留学を通じて学んだこと、考えたことは数え切れないほどあります。しかし、BCFに集結した学生達は日々問題意識を持って、課題解決しようという意思が誰よりもある

と感じました。自分に足りないものがあれば、それを日々深く追求し、それを補うために何をすべきかがはっきり分かっています。私にはそれが欠けていると感じました。自分なりに一生懸命に四か月間過ごすことができていると思っていましたが、まだまだ甘えがありましたし、すべきことはあると感じました。簡単そうに見えますが、当時の自分に足りなかったものに3日間で気づくことができ、本当に参加してよかったと思います。私にとって厳しい環境での3日間でしたが、この経験が無ければ今の考え方、生活の変化はなかったと思います。そして、それに対してアドバイスをくれた周りの友人や先生方にも深く感謝しています。(ちなみに、結果としては現在1社の企業から2回目の面接の機会を頂き、12月中に面接をオンライン上で受けることになっています。)

11月は社会人の方々とお話ししたり、就職活動を行ったりする中で自分の将来について考える機会を持てました。今月経験したことは、今後の留学生活に大きな影響を与えてくれると思います。112月はファイナルテストや冬休みなど色々な活動が盛りだくさんなので、それらについて報告できればと思います。拙い文章ですが最後まで読んでいただきありがとうございました。

質問、お問合せなどがございましたら、芝井千夏 (shibaic@findlay.edu) までご連絡ください。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 12月分

芝井千夏

作成日:2017年1月12日

明けましておめでとうございます。早いもので2017年も終わり、2018年がやってきました。昨年はたくさんの人々のご支援の下、新しい経験をし、自分を試し、国境を越えた友人を作り、充実した留学生活を送ることができました。残り約4か月の留学生活となりましたが、最後まで自分らしい生活を送りたいと思います。早速ですが、最近の出来事で2つ嬉しいことがありました。1つ目は、先月お伝えした就職活動のオンライン面接で合格を頂き、最終面接まで駒を進めることができたということです。2つ目は、12月に受験したTOEICで目標点数だった800点を超えることができたということです。4か月間で自分のやっていることに対して自信を無くすこともありました。しかし、このように結果として自分の努力を確信することができ達成感でいっぱいです。今後も何事も全力で取り組んでいきたいと思います。さて、今月は友人との会話の中から学んだアメリカの髪事情、そして冬休みの出来事についてお伝えしたいと思います。

1. アメリカの髪事情

私は日本で比較文化学科を専攻しており、世界各国の文化や情勢、課題、言語などを学んでいます。ある講義の中でアフリカ系アメリカ人の女性の髪事情について学ぶ機会がありました。アフリカの血を持つ人の髪は天然パーマがかかっており、女性は編み込みをしたりウィッグをつけたりして髪に変化をつけます。講義の中では、ウィーブという髪の種類に焦点を当てていました。ウィーブは本物の髪からできており、その髪はインドから輸入されます。インドの女性は宗教上の理由から黒くて長い髪を神に捧げお祈りをします。そのインド人の髪がウィーブとして最適なのです。神に捧げた髪がアメリカに送られ、別の人の髪となるという事実を知り、私は少し複雑な思いがしました。それと同時に、そこまでしてどうして髪に変化をつける必要があるのか疑問に思いました。



そして実際にアメリカに来てその理由がわかりました。私は様々な文化を学びたいと思ったことと、ルームメイトがケニア人ということからアフリカのコミュニティに所属しています。そこでアフリカ人やアフリカ系アメリカ人の友人を作ることができました。ある日、ルームメイトが髪に編み込みをする過程を見る機会がありました。その際、アフリカ出身のアフリカ人とアフリカ系アメリカ人の間に髪に対する考え方が違うということが分かりました。アフリカ人の友人によると編み込みはおしゃれの文化であり、編み込みに使用するのは人工的な髪だそうです。また地毛を他人に見せるのに躊躇はしていません。つまり、髪はおしゃれのツールという意味合いが強いのです。一方で、アフリカ系アメリカ人にとって、髪には社会的な意味合いがあるそうです。アメリカ人として社会に出るにはウィーブをつ

けていなければなりません。髪形によって就職活動が左右されることもあるそうです。アフリカ系アメリカ人の友人は他人に地毛を見せたことがありません。このようにアフリカ系アメリカ人はインド人女性の髪によって仕事を見つけたり、アメリカ人としての地位を確立したりしていることが分かります。髪一つをとっても国籍や育った地域によって考え方が異なるということは興味深いと思いました。日本の学校の「髪を染めてはいけない」という校則にもまだ議論の余地があります。個性を重視するのか、それとも社会性を重視するのか、これは世界的に見ても大きな課題なのではないでしょうか。

(写真は友人が私の髪に編み込みをしてくれている時のものです。)

2. 冬休み

12月19日から1月7日にかけて冬休みがありました。私は5日間シアトル、5日間カリフォルニア、9日間ニューヨークに滞在しました。学校はなかったですが、たくさんの人に会って人脈を広げるという目標を立て、活発に19日間楽しむことができました。

シアトルは5年前に福井県高校生海外語学研修で滞在した思い出のある都市です。Pike Place Market やスターバックス1号店、スペースニードルなど、どこに行っても思い出が蘇りました。(写真はPike Place Marketにて)

カリフォルニアでは2年前に都留文科大学に留学していた友人たちに会いました。大学に入学して留学生のチューター活動をしていたのですが、私が初めて担当した留学生が彼らでした。高校時代にシアトルに行き英語をもっと勉強したい、いろんな国の人と仲良くなりたいと思ったことをここまで続けられたのは、彼らたちのおかげといっても過言ではあり

ません。彼らの日本語を学ぶ姿勢や私を応援してくれる優しさに毎日背中を押してもらっていました。シアトル、カリフォルニアと私の今を作ってくれた場所や人に会い、初心に戻ることができました。

ニューヨークでは大晦日をタイムズスクエアで過ごしました。元々1人で行く予定だったので、MeetupやCouchsurfingといったアプリケーションを使いました。これらのアプリケーションは旅行者が宿泊先を探したり、共通の趣味を持つ人達と集まったりする目的で使われています。私は日本人グループと外国人同士で集まるグループに参加させてもらいました。日本人グループでは朝の10時に日本時間の年越しを行い、それからタイムズスクエアで14時間新年が来るのを待



ちました。外の気温は0度を下回っていました。また、一度ゲートをくぐるとゲートの外に出られないため、トイレを我慢するために水は前日から飲みませんでした。寒さで体が震えたり、水分不足で体のあちこちがつったりと過酷な大晦日でしたが、周りの皆さんと一緒に辛い大晦日乗り越えることができいい思い出になりました。それから新年を迎えた後、外国人グループに参加しました。参加者はトルコやブラジル、メキシコなど様々な国から来ていました。初対面の人ばかりでしたが、新年を迎えて Happy New Year! とハグをし合う文化が素敵だと思いました。



12月はほとんどフィンドレーにいませんでしたが、たくさんの場所に行き、たくさんの物を見て、たくさんの人に会い、よい冬休みを過ごすことができました。1月からは英語の授業だけでなく、現地の学生と一緒に受ける授業も始まります。自分の英語やコミュニケーション力を試す絶好のチャンスだと思うので、楽しみながら頑張りたいと思います。今回の報告書では学校内のことは少ししか書けませんでした、最後まで読んでいただきありがとうございました。

ご質問やご要望があれば芝井千夏 (shibaic@findlay.edu) までご連絡下さい。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 1 月分

芝井千夏

作成日:2018 年 2 月 9 日

皆様いかにお過ごしでしょうか。現在、福井県を含む北陸地方では大雪が発生していると聞きました。昭和 56 年豪雪以来 37 年ぶりの大雪だと聞いています。それにより、通学・通勤に影響が出たり、雪による事故が多発したりといったニュースも耳にしています。直接何もできないことが悔やまれますが、今後被害が起こらないようこちらからお祈りいたします。

さて冬休みも終わり、春学期が始まって約 1 か月が過ぎました。実はアメリカの東海岸でも「Grayson」という嵐が起き、デトロイト行きの飛行機が一向に飛ばずニューヨークで滞在せざるを得なくなっていました。「Grayson」はマイナス 18.8 度を下回る気温をもたらしました。また、このような嵐が起こるのは約 40 年ぶりだったそうです。何とか授業の前日には Findlay に到着することができましたが、忙しく春学期が始まりました。今回の報告書では春学期に履修している授業についてと挑戦し始めたことについてお話ししたいと思います。

1. 授業について

春学期は秋学期と大きく変わり、英語の授業に加えて、現地の学生と共に本格的な授業を受講することができます。秋学期は基本的に留学生と関わるが多かったのですが、現地の学生と一緒に現地の教育が受けられることを大変楽しみにしていました。1 か月間は文化や教育システムのギャップに少し苦しみましたが、段々慣れていることに喜びを感じています。特に、私が衝撃を受けたのは他人にノートを見せるのを拒む生徒もいるということです。アメリカの大学の生徒は日本の生徒よりも GPA を何倍も気にしています。そのため、楽をして点数を取るということは持っていない他ですし、自分が努力して取ったノートを他の生徒に見られるのを嫌がる生徒もいるのです。友人に聞くと、ノートを取って他の生徒に売るといった生徒もいるそうです。このアメリカ人の自己責任感には驚きましたし、見習わなければいけないと感じました。

また、授業は全部で 18 単位分履修しています。中でも、Criminal Justice と Macroeconomics は私にとって新しい学問で、毎回楽しみに受講しています。今回はこの 2 つの授業を紹介したいと思います。今後の奨学生の履修の参考になればと思います。

Criminal Justice

クリミナルジャスティス（刑事司法、刑事裁判）ではアメリカの死刑制度の歴史、現在の死刑制度、警察の採用方法、銃社会への取り組みなどを学びます。留学をして想像していたよりもアメリカは社会問題を抱えているということに気づきました。アメリカンドリームという言葉もあるようにアメリカは自由で裕福な国というイメージでしたが、ドラッグ、銃、移民、人種、ホームレスなど日本にはないような課題も抱えていることが分かりました。そこで、国民をまとめる司法を学べばアメリカの課題やそれらを解決する取り組みが知れる

のではないかと考え、この授業を受講することに決めました。また、この授業では毎週クイズがあるので点数を維持できるよう取り組みたいです。

Macroeconomics

マクロ経済学では政府や個人の市場ではなく、貿易を介した国単位での市場を学ぶ学問です。私は日本の大学で学ぶ中で、BOP ビジネスというものに興味を持ちました。BOP ビジネスとは年間所得が3000ドル未満の収入で生計を立てている人々をターゲットとし、ビジネスの面から貧困撲滅を目指すという者です。このビジネスは国と国間の交渉が無ければ成り立ちません。そこでBOP ビジネスを学ぶと同時に、国と国のビジネスがどう成り立っているのか、どうすれば両国が十分な利益を得ることができるのかも学びたいと思い受講しました。この授業は毎週の復習課題があり、それによって成績も決まるので、毎回の授業をしっかりと理解していきたいです。

2. 取り組み始めたこと

今学期に入り、私は3つの新しいことに取り組み始めました。春学期はより積極的に色々なコミュニティに参加し、友人や自分の可能性を広げたいと思ったからです。これから3つの取り組みについてお伝えしたいと思います。



1 つ目は、前奨学生の方も何名か参加しているようですが、「funny girl」というミュージカルに参加させていただけることになりました。私



は幼い頃からよさこいやエレクトーンなど、練習をしてその成果を発表することに喜びを感じていました。大学入学後そういった経験をする機会が減っていたので、アメリカで再度挑戦してみようと決断しました。11月頃に歌とダンスのオーディションがあり、合格を知った後、ニューヨークでブロードウェイを観たため、準備万端で練習に挑めました。練習は毎週月～木曜日、土曜日に行われ、ほとんど毎日のようにミュージカルのメンバーに会います。最初は自分だけ馴染めていないのではないかと、誰に質問すればいいのだろう、などとい

った消極的な考え方や態度ばかり取っていました。しかし、日が経つにつれて友人もでき、休憩時間も言葉を交わし、分からない所はすぐに聞くという積極的な行動を取れるようになりました。既に今の段階で一步踏み出してよかったと感じられているので、本番が大変楽しみです。

2つ目は、FASA (Findlay African students association) というアフリカのコミュニティの一員として3月に行われる African night に出場することになりました。私はこのイベントでダンスとファッションショーに参加することになっています。このコミュニティのメンバーはとにかく明るくて言いたいことは言う友人ばかりです。ある日、メンバー間での意見に食い違いがありました。その際、チナツの意見は？と聞かれることがあり、少し戸惑いました。日本では協調性を大切にしていたため、自分の意見を言うことに少し抵抗がありました。しかし、ここでは自分の意見を言って当たり前の文化なため、自分の意見を固めてそれを表現するということができなければなりません。単に言語を学ぶのではなく、文化をも学び、英語話者とコミュニケーションを取る大切さを改めて感じました。

3つ目は、サックスのレッスンを受講し始めました。サックスは中学校からの憧れでいつか挑戦してみたいと思っていました。かなり難しいですが、少しずつ進歩しているのが見られてこれからも頑張ろうと思えます。

毎日忙しくはありますが、充実した日々を送っています。春学期になって、キャンパス内の友人の輪も広がり留学をしている！という実感がさらに湧いています。残り3か月ほどになりましたが、時間を無駄にすることなく過ごしていきたいです。来月はミュージカルの本番やホロコーストミュージアムの見学などのイベントがあるので、それらについて紹介できればと思います。

最後まで読んでいただきありがとうございました。ご質問・ご要望などがあれば芝井千夏 (shibaic@findlay.edu) までご連絡下さい。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 2月分

芝井千夏

作成日:2018年3月1日

皆様、いかがお過ごしでしょうか。月日が経つのは早く、あっという間に3月を迎えました。日々学校に行き、友人と一緒に授業を受け、授業の合間には友人としゃべり通し、時に課題やテスト勉強に追われ、そんな何気ない毎日が愛おしく思います。8月に初めてここに来て上手くやっていけるのだろうか、という不安もありました。しかし、今大切な友人がいて先生方がいて、かけがえのない居場所になりました。留学生活も残り2か月となりましたが、毎日健康で、学ぶ姿勢を忘れず挑戦し続けていきたいです！今回の報告書ではホロコーストミュージアムの見学、ミュージカルの公演、電子機器のトラブルについてお伝えしたいと思います。

1. ホロコーストミュージアム



2月4日に、Michiganにある Holocaust Museum に行ってきました。これはビフォードセンターというオフィスが定期的に主催しているイベントの1つです。小中高と修学旅行で平和学習を行いました。どれも日本側からの視点でしか見られていなかった、と気づき、今回のイベントの参加を決めました。ホロコーストはギリシャ語で「焼かれたいけにえ」という意味を持つそうです。1933年にドイツの政権を握った

ナチスはドイツ人を優れた人種、ユダヤ人を劣った人種とし、迫害を行っていました。驚いたのは、ナチスはユダヤ人だけでなくカトリック、エホバの証人、ホモセクシャル、Roma, sinti と呼ばれる遊牧民も迫害していたことです。囚人は服の背中に色を塗られ、その色によって扱われ方が異なりました。展示品は目をそらしてしまいそうなものもありましたが、ナチスが行ったホロコーストという現実に向き合い、知識を得ることができ大変貴重な時間となりました。展示の中に、「人間はグループを作りグループの外を排除してしまう、しかし大事なものは個人であり、個人同士が助け合うことが重要なのだ」という言葉がありました。個人として自立し、弱い部分をサポートし合える人間関係、その積み重ねが平和を作りだすプロセスなのだと学びました。

2. ミュージカル公演

2月23日、24日、25日に、”funny girl”というミュージカルにキャストとして参加させてもらいました。”funny girl”は1964年にブロードウェイで公開、1968年に映画化されたかなり古い作品です。内容は、ある舞台の売れない踊り子であるFannyという女性が成長し、強くたくましく生きていく姿を描いたものです。

先月の報告書でお伝えしたように、春セメスターが始まってから毎日のようにミュージカルの練習をしていました。時には、深夜を回ったり、休日がなくなったりする日もありま

した。特に最終週は授業、練習、就寝にしか時間を割けないほど、忙しい日々が続きました。しかし、3日間の公演は一つひとつ本当に思い出深いものになり、カーテンコールの際は目に涙があふれるほどでした。公演を終えた現在、キャストのメンバーと会う機会が減り、寂しい気持ちもあります。しかし、一つのものを一緒に向上させて作り上げていく喜びをこの約1か月間で心から感じ取ることができました。また、今まで英語を話すこと、アメリカ人の中に一人であること、に積極的でなかったことを強く感じ取れた1か月でもありました。ミュージカルを通じて、ダンスや歌だけでなく、信頼できる友人、自分から積極的に行動する力、そして小さな自信をも手に入れることができました。一步踏み出せた自分自身に感謝の言葉を言いたいです。また、“buddy”といつも言ってくれた Mykayla、練習後の夜食仲間の Austin、Kayla、日本の文化に興味津々な Eli、オーディションで一番に声をかけてくれた Demetrius、同じ留学生なのに活発に友人を作り、私の目標像になってくれた Tim、キャストの全員、そして応援してくれた友人、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これを機に、ミュージカルに関わり続けたいと思えるほど、本当に素敵な経験でした。



3. 電子機器のトラブル

私事ですが、この時期にパソコンと携帯が同時に壊れるという非常事態が起きました。パソコンは学校の 3 C Computer repair という施設で、携帯は ioutlet (<https://ioutlet.net/>) という店で修理をしてもらいました。日本では修理を出す際にデータがすべて消去されることが多いようです。しかし、アメリカではパソコンや携帯のパスワードを伝えれば、そのままの状態での修理、返却されます。情報の流出の面では心配ですが、これまでの履歴や写真が消えていなくて安心しました。ちなみに、google photo というアプリケーションでは、デバイスを変更してもアカウントが同じであれば写真を保存することができます (<https://itunes.apple.com/us/app/google-photos/id962194608?mt=8>)。また、050+ というアプリケーションがあれば国際電話が大変安くかけられます。私は 050+ を利用してパソコンと携帯の補償を確認することができ大変役立ちました (<http://www.ntt.com/personal/services/phone/ip/050plus.html>)。これからの奨学生がこのようなトラブルに直面した際、情報が役に立てればと思います。また、同じ修理でも情報の処理に関して日本とアメリカでは異なることが興味深いと思いました。

小さなトラブルはありましたが、今月も充実した毎日を送ることができました。後2か月という短い時間ですが、後悔をしないよう、全部やってみる、試してみるという精神で日々

を過ごしたいです。最後まで読んで頂きありがとうございました。

ご質問、感想などがあれば shibaic@findlay.edu (芝井千夏) 宛てにメールを頂ければと思います。また、他の福井からの留学生と共に、インスタグラム (findlay_x_fukui) も更新していますので、ぜひご確認ください。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 3 月分

芝井千夏

作成日:2018 年 4 月 11 日

こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか。4 月に入り日本では桜が咲き始め、新しい生活を始めている方もいるのではないのでしょうか。進学・ご就職された方々もおめでとうございます。一方、フィンドレーはまだ春の兆しが見えず、ジャケットを着こむ日々が続いています。残り約 1 か月となりましたが、寒さにも負けず一日一日を精一杯過ごしたいと思います。今回の報告書では、春休み、インターナショナルナイト、そしてアフリカナイトについてお伝えしたいと思います。

1. 春休みについて

3 月 3 日から 11 日に春休みがあり、友人とテネシー州から始まり、ノースカロライナ州、サウスカロライナ州、ワシントン D.C. を回るロードトリップを行いました。一番印象に残っているのはグレート・スモーキー山脈国立公園を登山したことです。グレート・スモーキー山脈公園はテネシー州とノースカロライナ州に跨ってそびえ立つ広大な山脈で、この公園だけでアメリカ全土の気候を味わえるとも言われています。様々なトレイルがある中で私たちは the jump off と Charlies Bunion という 2 つのトレイルを選び、約 18 キロを 5 時間かけて登りました。急な坂道や砂利道もありましたが、2 人で励まし合いながら登り切って見た景色は何にも代えられない絶景でした。絶景の前で食べたサンドイッチも人生で一番の昼食になりました。



ワシントン D.C. ではスミソニアン博物館を 1 日かけて回りました。スミソニアン博物館とは、イギリスのスミソンという科学者の遺贈により建設された博物館・美術館・動物園などの総称を指し、現在はアメリカのスミソニアン協会が運営しています。スミソニアン博物館の内 17 施設がワシントン D.C. に位置しており、国立アフリカ系米国人歴史文化博物館を除いたすべての博物館を無料で見学できます。私たちは国立アメリカ・インディアン博物館、国立アメリカ歴史博物館、ボタニカルガーデンそしていくつかのモニュメントを見学しました。国立アメリカ歴史博物館ではパールハーバーを始めとした日米間の戦争に関する展示を見ました。日系アメリカ人への差別やアメリカの視点から見た日本を知ることができ大変興味深かったです。しかし、展示の前では私が唯一の日本人だったので、少し居づらさを感じました。今後平和な世界を築くには伝えること、そして歴史から学んで知ることだと思います。その点から今回の博物館の見学は大変意味のあるものだったと思います。

2. インターナショナルナイトについて

3月16日にインターナショナルナイトがありました。インターナショナルナイトとは、フィンドレー大学に在籍する留学生が各々の文化を共有し理解し合うという目的で行われる年に一度の大きなイベントです。今年は43か国中約20か国の国が、伝統的な食べ物やゲーム、ダンスなどを披露しました。渡米前からインターナショナルナイトについて耳にしておらず必ず参加したいと思っていたので、日本代表として参加することができ嬉しく思っています。



日本のブースでは縁日をテーマにヨーヨー釣りや輪投げ、箸を使ったゲームなどのアクティビティ、そしてうどんを振る舞いました。5時半から8時まで開催されていたのですが、行列が途切れることのないほど大盛況でした。また、日本人のメンバー10人と共によさこいも踊りました。1か月ほど前から練習して本番に備えていたので、踊り終わった際は達成感でいっぱいでした。普段の会話ではあまり話題にならない日本の文化を公の場で共有することができ、かつ友人を含め、たくさんの人々に日本について興味を持ってもらうことができ、日本人であることに再度誇りを持てた日になりました。

3. アフリカンナイトについて

インターナショナルナイトの1週間後の3月24日には、アフリカンナイトが行われました。アフリカンナイトはフィンドレーだけでなく、アメリカ中で盛大に開催されているイベントで、アフリカ各国の文化が披露されます。以前、報告書でお伝えしたように私は FASA (Findlay African Student Association) に所属しています。今回、そのクラブの一員としてこのイベントに参加させてもらうことができました。フィンドレー大学ではアフリカの伝統的



なダンスを披露したり、ファッションショーを行ったりしました。私はダンスを踊る予定だったのですが、運営の都合上ファッションショーのみの参加となりました。衣装はアフリカの国々できるように自分の好きな布で自分の好きな形をオーダーします。友人の家族がアフリカの服を作る店を経営しており、すべて一から丁寧に仕上げてくれました。

FASA に所属して特に気づいたことは2つあります。まず、アフリカンタイムが存在する

ということです。本番前日、6時からリハーサルがありました。私は6時前に集合場所に到着していたのですが、人が集まりだしたのは7時頃でした。私は不思議に思って友人に聞いてみると、アフリカタイムは集合時間の30分後から1時間後だと教えてくれました。7時に集まった際、みんな謝る様子もなく何もなかったようにリハーサルが始まったので、少しカルチャーショックを受けました。また、アフリカの人々はアフリカ人と一括りされがちであり、彼らはそれをあまり好んでいないということです。アフリカという地域にはケニアやザンビア、南アフリカなどの多様な国があり、それぞれの国は異なった文化を持っています。それを1つの地域としてみるのではなく、それぞれの国を尊重し、理解すべきだということを学びました。振り返ってみると、気づかないうちに自分自身もアフリカとひとくくりにしていたように思います。FASA に所属し色々な人と交流しながら異文化を理解でき、自分の考え方を柔軟に変えられるようになったと思います。

4. まとめ

3月は特に異文化について考え理解する機会が多かった月でした。普段、色々な国籍の人に囲まれて生活する中で、理解し合えなかったり、自分の中にある基準が相手と異なったりすることがあります。しかし、自分の意見を押し通すのではなく、自分の文化はもちろんですが相手の文化や考え方を知って適応させることが大切だと思いました。この環境に身を置けることが当たり前だと思わずに、日々貪欲に、柔軟な心を持って残りの1か月を過ごしたいです。

最後まで読んで頂きありがとうございました。

何か質問やご要望がありましたら、芝井千夏 (shibaic@findlay.edu) までご連絡下さい。

2017-2018 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 4 月分

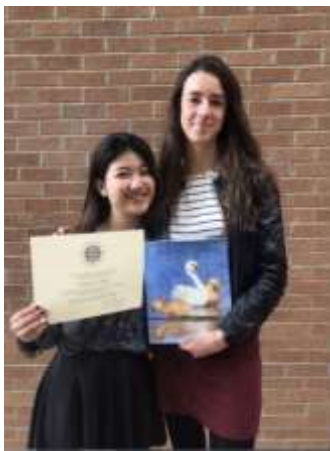
芝井千夏

作成日:2018 年 5 月 13 日

こんにちは。皆様、初夏を迎え暑くなって参りましたが、いかがお過ごしでしょうか。まず始めに、5 月 5 日をもってフィンドレー大学・福井県奨学生としてのプログラムを終え、無事に帰国しましたことをお伝えします。皆様のお力添えのもと、これまで元気に充実した留学生活を送ることができました。今回の報告書で最後となりますが、集大成としてお伝えできればと思います。

今月の報告書では、Phi Kappa Phi の表彰式、A night Among the stars の表彰式、FUKUUI USA への表敬訪問、そしてフリード氏の訪問についてお伝えしたいと思います。

1. Phi Kappa Phi の表彰式



Phi Kappa Phi とは 1897 年に創立されたアメリカで最も古い育英会のことを指し、様々な学問の領域に亘る名誉を賞しています。アメリカとフィリピンにおける 300 キャンパスの中から、年間 3000 人もの生徒たちが名誉を受け、大学院などといった次のキャリアへの一助としているそうです。

今回、私はこの団体により、秋学期クラスのトップ 5% の生徒として表彰していただくことができました。秋学期は英語の Reading, Listening, Writing, Grammar 中心の授業でしたが、春学期の準備を確実にすることでこのような賞を頂くことができたのだと思います。また、留学中に TOEIC を受験し点数を約 150 点伸ばすことができました。このように、一生懸命取り組んだことを点数や周囲から認めてもらうことで大きな自信に繋げることができました。

2. A night Among the stars の表彰式

4 月 16 日には A night Among the stars の表彰式に参加しました。これは、1 年の終わりにフィンドレー大学の学生が各賞にふさわしい人物をノミネートし、会議によって受賞者が決定されるというものです。賞には学問からクラブアクティビティの分野まで様々なものがありました。ノミネートされた人は自身が表彰されるか、また、誰がノミネートしたのかわからないまま表彰式に向かいます。

私自身もノミネートされたというメールを受け、何が何かわからないまま表彰式に向かいました。会場には豪華な食事が並んでおり、表彰されなくてもこれだけで十分だと感じていました。しかし、私は”outstanding intercultural student” という留学生代表として立派な賞を頂いている



ことが分かりました。表彰される際に、” Bravery is not a quality of the body. It is of the soul” . （勇気とは、身体能力ではなく、不屈の精神から生まれるものだ。）というガンディーの言葉を一緒に頂き、日々挑戦してきたことを認めてもらうことができたと感じました。

帰国途中の飛行機での話ですが、友人からもらった手紙を開けると、そこには手紙と推薦書が入っていました。友人の一人が私をノミネートしてくれたのです。直接感謝の言葉が言えなかったので、友人に会ってお礼を言うことが今の小さな目標です。

3. FUKUVI USA への表敬訪問

5月4日に、大変お世話になった川村教授と共に FUKUVI USA へ表敬訪問に行きました。フクビ化学は建築資材や樹脂製産業資材、精密化工製品の製造・販売を行っており、東京や大阪などの県外はもちろんのこと、アメリカやベトナムなどの国外にも展開している企業です。FUKUVI USA では主に、アメリカ及びヨーロッパからの発注を取り扱っており、ニューヨークの地下鉄の



電気カバーやボーリング場のガター、ポーランドの浄化処理のパイプなどとして FUKUVI USA の製品が用いられているそうです。受注してから、できる限り早く発送できるよう例年のデータを分析して在庫の数を補ったり、信頼を得るために納期を確実に守ったりといった徹底した努力をされているというお話を伺いました。福井が誇る一企業がアメリカでも活躍されていることを直接目にするのができ、私も誇らしくなりました。

社員の方々の前ではプレゼンテーションを行い、教育現場での活動、奨学金制度の情報発信活動、そして自身が行った様々なアクティビティを中心にお話しさせていただきました。皆さん熱心に聞いて下さり、一年間のまとめをできたと思います。また、プレゼンテーション後は他にどんなアクティビティをしたのか、友人はたくさんできたか、どんな授業を履修したか、など様々な質問をしていただき充実した時間を過ごすことができました。

4. フリード氏の訪問

5月4日の午後には、フリード氏のお宅に訪問に行きました。フィンドレー大学・福井県奨学金制度は2006年にフリード前学校長によって提携されました。第二次世界大戦後、1947年に福井県を訪れたフリード氏は福井県民の誠実さや勤勉さに感銘を受けました。その滞在がきっかけとなりフィンドレー大学・福井県奨学金制度が創設されたのです。現在では12年目を迎え、福井県立大学提携が結ばれるなどフィンドレーと福井県の結びつき

は益々強くなっています。

フリード氏のお宅を訪問した際再度プレゼンテーションを行ったのですが、どの話にも耳を傾けていただけてだけでなく、お褒めの言葉も頂き感激しました。私がアメリカの地に身を置いて学ぶことができたのも、フリード氏の働きかけによるものです。フリード氏に直接会うことができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、最後には庭のお花をいくつか頂戴しました。



5. まとめ

今月は表彰式や企業やフリード氏の訪問など留学生活を集大成することができました。留学生活全体を通じて挑戦し続け、その挑戦を自信に変えることができました。その経験は自分一人では持続できませんでした。友人や先生方、両親、福井県民の皆様、関わってくれた全ての人々に感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、福井県への貢献、奨学制度の発信、自分の将来についてなども熟考し、留学の経験を十分に発揮していきたいです。

質問・ご感想などがあれば芝井千夏(shibaic@findlay.edu)までご連絡ください。

留学修了報告書

2019年1月

芝井千夏

目まぐるしく過ぎ去る日々の中で、心に深く刻まれているフィンドレーでの生活。長いようで短かった約10か月間は、私の22年間の短い人生の中で大切な財産となりました。留学生活で出会った友人とは今でも連絡を取りますし、学校や街の風景を思い出し第2の故郷に思いをはせることもあります。これほどフィンドレーの友人や土地に愛着を感じているのは単に留学したからではなく、留学というチャンスを頂いて自分なりに成長し変化することができたからなのだと感じています。私はこの留学を通して、挑戦、継続、自立する力を身に着けることができました。

過去の報告書にもあったように、私はミュージカルに挑戦しました。知人もおらず、周りのキャストがミュージカル専攻だったり、ミュージカル経験者であったりと今考えても無謀な挑戦だったと感じるほどです。自信のない歌声で挑んだオーディションや、1人寂しく参加した1回目の練習。しかし、気づいたら最後には私を励まし支えてくれる友人とともに、拍手を浴びながら舞台に立っていました。自信のない自分をどうすれば変えられるか、必死になって考えました。深夜近くまで続く練習の前に自主練習をし、分からない所は周りのキャストに聞き続けました。すると、私に興味を持ってくれた友人を始め、友達の輪が広がりました。練習後は、みんなでスナックを食べに行ったりゲームをしたりしたのもいい思い出です。また、アメリカでは自分の意見を言うシーンが日本とは比にならない程多いです。ミュージカルの練習後は全員で輪になってアイディアを出し合います。確かに、意見を言わずに周りの流れに身を任せるのは楽です。しかし、自分の考えを持ち、それを共有できることは話し合いの可能性が広がりますし、より中身の濃い結論を出すことができます。何事にもアンテナを張って自分なりの意見を持ち、共有し、考えを深めていく重要性を感じました。これは人生観にも言えることだと考えます。アメリカでできた友人はそれぞれ夢があり、出来るか出来ないかで決めていません。周りと一緒にある必要は全くなく、それぞれが独自の考えを持ち夢に向かっていく印象を受けました。新しい世界に留学生として飛び込んだこと、自主練習を継続し周りに認めてもらったこと、そして何より自分の弱さと向き合い克服したこと、ミュージカルの経験は今の自分の生活にも生きています。

アメリカでの日々は、無理なのではなくやらないだけだと弱い自分を奮い立たせてくれ、強さを与えてくれました。帰国した今でも、弱気になりそうな時、落ち込んだ時、留学生活の全てが私の背中を押してくれます。この経験が無駄にすることなく、今後も挑戦や努力を継続し、芯のある優しい人間でありたいと思います。そして福井県の英語教育に貢献したいと強く思っています。最後になりましたが、このような貴重な経験を下さった福井県の皆様、そしてサポートしてくれた家族や友人にお礼の言葉を添えて、結びとさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。